



①工期内の完了に向けてスケジュールを管理。プロジェクトに関わるあらゆる人たちと連絡調整ができるコミュニケーション力が求められる ②現場に向かう前に「安全管理」と「品質管理」を再確認。社内には若い世代が多く、気になることがあれば気軽に周囲に相談することができる。熱中症や感染症など、健康管理にもお互いに気を配り合う ③現場では協力会社との「報連相」が欠かせない。責任が大きいからこそ、無事に完成した時の達成感は格別だ ④施工管理は屋内での書類作業も多く、デジタル化も進んでいる ⑤二本松市内の羽石高架橋（国道459号橋）で行われている補修工事現場。OJTやジョブローテーションの経験は、土木施工管理技士などの資格取得にも役立つ

株式会社小野工業所

土木インフラメンテナンス(橋梁維持修繕、一般土木、鋼構造物、塗装、舗装)他



「インフラを守る」使命感をもって20~30代が施工管理者として活躍中。外国人技術者も在籍している

明治22年に創業し、136周年を迎えた「小野工業所」。現在は福島と東京にて事業を展開。社会インフラの建設・維持・修繕を通じて暮らしや安全を守り、地域発展に貢献している。「作り続ける時代から、維持する時代へ」という社会的な要請に応え、特に橋梁保全の分野に注力。国が行う公共工事では東北地方トップクラスの実績を誇る。最大の特徴は、20・30代の若手社員が技術職の核として活躍していること。入社後は手厚い支援のもと多くの若手が国家資格を取得。現場トップである監理技術者や主任技術者として、数億円規模の工事を指揮監督している。地図に残るやりがいを胸に、100年に向けて持続可能な社会の実現へ歩み続ける。

同社では、社員が公私ともに充実した生活を送れるよう、建設業界に先駆けた働き方改革に取り組んでいる。年間休日125日確保に加え、残業時間削減や有給休暇の取得促進を実施してきた。育児休業も男女問わず高い実績があり、家族との時間を楽しみながらキャリアを築くことができる。また、将来の資産形成を支援する「企業型確定拠出年金制度」(会社が毎月2万円拠出)や家賃補助、社有車や携帯の貸与など、生活を支援する福利厚生も充実。資格取得支援を行っており、業務上必要な資格の受験費用や講習代を会社が全額支援し、社員のスキルアップを支えている。こうした環境づくりを通じて、社員一人ひとりが安心して成長し続けられる職場を実現している。

作り続ける時代から
維持する時代へ

長く安心して働ける
環境も魅力

地図に残り、未来に誇れる仕事
次の100年に、橋渡ししよう